

## 7. 「奨励金及び各賞推薦」委員

新委員 加藤 政勝 東京管区気象台  
平沢 正信 気象研究所

旧委員 森 秀雄 東京航空地方気象台  
八木 正允 秋田地方気象台

## 1. 「国際学術交流」委員

新委員 清水 正義 海洋気象部

旧委員 浅田 暢彦 日本気象協会

## 3. 電子掲示板について

パソコン通信ネットワークのホスト局運営業務の契約内容が「案」に基づいて審議された。契約期間・更改の項をいれるなど一部修正の上承認され7月中に契約し、8月から実施されることになった。

## 4. 山本賞候補者について

村上担当理事より平成元年度の山本賞候補者が紹介された。今後、全国理事の投票をすることになった。

なお席上、論文の対象となる期間は年で（前年、前前年）、しかし、賞自体の授与は年度であるこ

とが確認された。

（平成元年度の山本賞は昭和63年1月—12月または昭和62年1月—12月に発表された論文を対象とする）

## 5. 学会の持ち方について

地震学会長、地球電磁気・地球惑星圏学会長から地球物理学に関連する諸学会の春季大会を同時に開催したいとの意向打診があり審議が行われた。会場、時期、総会、定款との関わりなどテクニカルな問題、また学術的な意義などについて議論されたが、結論を出さずに次の常任理事会で審議することとした。

## 6. その他

気象学会入会案内の内容について、会員外に対する機関誌の価格など一部改訂の必要がある。外国会員及び外国在任会員からの会費納入の方法、会費をドル建てから円建てにすることなどの問題が事務局から指摘された。これらの点について事務局・庶務、会計担当で調査し、改善案を出すこととなった。

編集後記：予知の難しさを改めて認識させた伊東沖の火山活動は一段落した(?)ようですが、天気の方は、すなおな梅雨明けで「夏らしい夏」という感じですが、と言っているだけでは長期予報としては不十分なのでしょうが……。

さて、「天気」編集委員会では、天気の印刷方法について検討中です。先日、印刷会社に行き、現在の活版方式、今後、ますます盛んになりそうな電算機を使った平版方式を見学させていただきました。前者は、音もうるさく、まさに職人さんと呼ばれるべき中高年熟練労働者の職場、後者は、若い人もいっぱいいる計算機端末室の

ような職場でした。

確かに活版を扱える人はますます少なくなるようで、今後10数年間で、無くなることはないらしいですが、経済的に高額になるかもしれない、また、保存版からの重版が難しくなりつつあるということでした。将来的にはいづれ平版へ移行することになるだろうということですが、いつの段階で移行すべきか議論されています。

一足先に電算方式を取り入れている「気象集誌」の印刷についての感想や、今後の「天気」印刷方法についてのご意見なども編集委員会へお寄せ下さい。（日の光）